

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「言語コミュニケーション文化学」にふさわしい横断的・総合的カリキュラムを実施する。	→カリキュラム委員会においてのカリキュラムの定期的検証。	A
2. 社会人学生に配慮したカリキュラムを導入する。	→大阪梅田キャンパスでの開講数。	A
3. 課程博士学位授与者を毎年度1名以上輩出する。	→研究指導体制の改善、公表。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

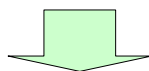
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.1.1	(方針) 本研究科は言語コミュニケーション文化学の専門家の養成を目指している。前期課程では、言語コミュニケーション文化学の4つの研究領域に対応した学位(言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学)を授与する。後期課程では、言語コミュニケーション文化学の学位を授与する。 (現状説明) 前期課程、後期課程ともに、言語コミュニケーション文化学にふさわしい横断的・総合的カリキュラムを実施し、研究内容に対応した学位を授与している。2009年度の修士号取得者は25名、博士号取得者は1名。
☆ 小項目6.1.2	(現状説明) 研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱ、課題研究などゼミ(3科目)を必修とし、言語コミュニケーション能力養成科目・実践科目などを、選択必修科目(19科目)、各領域科目を選択科目(45科目)とし、充実したカリキュラム体制をとっている。教育課程の編成・実施方針については、研究科のホームページ、履修心得等によって明示している。
☆ 小項目6.1.3	教育目標・学位授与の方針は、入試要項並びに研究科のホームページ等で公表している。
☆ 小項目6.1.4	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についてはカリキュラム委員会、研究科委員会で定期的に検証を行っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	教育目標に基づき、学位授与の方針が明確に明示されている。
小項目6.1.2	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針が十分に明示されている。特に社会人を対象とした夜間コースは、大阪梅田キャンパスで授業が行われており、高度職業人の養成に貢献している。
★小項目6.1.3	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員に周知され、社会に公表されている。
小項目6.1.4	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については、カリキュラム委員会を年間4回程度開催することによって、定期的に検証を行っている。
その他	



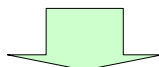
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	社会人を対象の夜間コースは現職の教員の再研修の場としても意義があるので、社会人を対象にした広報活動にも力を入れる。
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「目標」の設定について、6.2「教育内容」に関するものになっています。6.1では、研究科の説明責任の一環として「教育目標」等が学内外に適切に明示・公表されているかどうか問われています。その観点から「目標」等を再検討することが望まれます。
○設定した「目標」に向けて着実に進捗していることは評価できます。

【学内委員】

○教育目標、人材育成の目標ともHPに明示されており、大変評価できます。またカリキュラムの特色や学位授与の方針も明示されておりこれも大変優れています。ただし、後期課程に関しては入試要項の記載情報に工夫が必要と思われます。
なお、梅田キャンパスの開講数等の指標に関し、進捗評価を裏付ける数値を《小項目ごとの現状説明》のその他欄で説明された方がより分かり易いと思われます。
○目標に照らして進捗していると判断されます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

<個別的な指標>
